

視点 (976)

ノーベル賞の受賞のメカニズム!!

今年(2008年)のノーベル賞に、日本人が4名受賞しました。素晴らしいことです。同じ日本人として誇りに思います。

私は「成果の研究」をライフワークにしています。そのため、2007年11月に「六車流研」を設立しました。そのような関係で、ノーベル賞受賞者が「何故、ノーベル賞を授与されたのかのメカニズム」に興味を持っています。過去の「流通とSC・私の視点」で3回、ノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイ氏(流通とSC・私の視点516)、ムハマト・ユヌス氏(流通とSC・私の視点732)、アル・ゴア氏(流通とSC・私の視点827)を成果のメカニズム解析の事例として紹介させていただきました。

ここで、ノーベル賞受賞のメカニズムを私なりに分析し、解析させていただきます(六車流:流通理論)。

博士号を取得するためには、新たな発見とそのメカニズムを解明すればいいわけですが、ノーベル賞には「偉大なる成果」が必要となります。ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベル氏が、そのダイナマイトが平和利用ではなく戦争に使われ、多くの人々の命を奪った後悔から、世の中のために貢献した人に賞金を与える制度を作ったのが、ノーベル賞です。それゆえに、**世の中への成果がないことには、ノーベル賞の対象となりません。**ここで、ノーベル賞を受賞した人々の、受賞するまでのプロセスは次の通りです。

プロセス	成果のレベル	成果の内容	
第1段階 (成果の源)	現象の理論構築 レベル(成果の基礎レベル)	偉大なる発見に基づく 先駆的理論の発見と構築	今まで顕在化されていなかった現象を先駆的に発見し、メカニズムを解明し、理論構築すること。
		偉大なる行動に基づく 先駆的知行の発見と構築	一つの出来事の解決に対して、先駆的に対応行動を発見し、メカニズムを解明し理論構築すること(知行=知恵のある行動)。
第2段階 (成果の具現化)	成果の波及効果 レベル(成果の応用レベル)	直接的成果を出す応用 ノウハウの構築	理論構築されたものを、世の中(人類や地球)のためになるように波及させ目に見える成果を出すこと。
		間接的効果を出す応用 ノウハウの構築	理論構築されたものを、実際に検証・実証することにより科学、文化の発展に寄与するという成果を出すこと。
第3段階 (成果の表彰)	成果の儀式レベル (成果の尊厳化レベル)	第1段階は成果の基礎レベルであり、理論としては素晴らしいが成果は見えません。第2段階で初めて、成果が具体的に世の中で役に立つ(顕在的かつ潜在的)こととなります。この第2段階でノーベル賞の妥当性が評価され、偉大なる評価に基づきノーベル賞が授与され、第3段階は儀式ではあるが、世の中に発表され尊敬されるようになります。	

このように、ノーベル賞は第2段階の「成果の波及効果レベル」(理論構築を応用して成果を具体化するレベル)で、ノーベル賞に値するか否かが決定されます。それゆえに、「偉大なる発見や偉大なる行動」であっても、その発見と行動の波及により効果(波及効果)がなくては、博士号を授与されてもノーベル賞は授与されません。そこに発見・行動とノーベル賞の受賞までの期間(時間)が1~50年までの大きな差が出るのです。

また、偉大なる発見と行動は「**努力の積み上げ型**」(研究や思考の努力の積み重ねの上での発見と行動)と「**偶然型**」(たまたま起こった現象の発見や行動)には関係なく、ノーベル賞は**成果があれば受賞**できます。

ただ、ノーベル賞は決して万物の成果を出した最高権威の賞ではなく、ノーベル賞というマーケティングによりブランド化された賞であるため、実際以上に一般人に過剰評価されています。

(株)ダイナミックマーケティング社³
代表 六車秀之